

新科目「公共」を2単位でどう教え、どう学ばせるか

—移行を見据えた「現代社会」政治単元の指導を通じて—

所属コース	教科領域コース
氏名	平井 慎太郎
指導教員	鴛原進 池田哲也

【概要】

本研究は、平成30年告示の高等学校学習指導要領(以下、新学習指導要領)により公民科に新設される「公共」の実施を直前に控え、指導現場がどのような課題意識を持っているかを調査するとともに、調査結果を踏まえて「現代社会」から「公共」への円滑な移行に寄与する指導プランを作成し、実践結果を基に「公共」の指導方法を提案するものである。

公民科教員に対する意識調査としては、谷田部他(2020)や村井他(2021)らの先行研究があるが、本研究は教科書見本が提示された後の調査であり、より詳細な調査が可能となった。愛媛県内の公民科教員に対して実施したアンケート調査では、新科目の理念や内容についてはおおむね賛同する意見が多かった一方で、広範な内容を限られた時間で指導することの難しさや探究学習に対する不安なども見受けられた。こうした結果を受けて本研究の授業実践では、「公共」の教科書配列を踏まえて「現代社会」政治単元の学習内容を再構成し、現実の政治事象とリンクさせながら限られた時間で指導するプランを開発した。

キーワード 限られた時間 単元を貫く問い 主体的学び 主権者としての意識

1 はじめに—研究の目的と方法—

新学習指導要領における新設必修科目「公共」には、主権者教育、消費者教育や道徳教育を推進する上で中心的科目の役割が期待されており、公民科を専門とする教員としては、指導のやりがいがある科目であると感じている。しかし、地理歴史科に「歴史総合」「地理総合」の二つの必修科目ができたことで、「公共」の履修は大きく制約を受けることが予想される。かつて「現代社会」は標準単位数4単位で実施されており、広範な内容を取り扱うだけの余裕があったが、その後2単位に減じられた。後継科目とも言える「公共」の標準単位数は同じく2単位のみであり、指導内容の多さに対して履修条件は非常に厳しいと言わざるを得ない。そのため、「公共」の内容について履修が不十分なまま、その後の「政治・経済」や「倫理」を履修しなければならない状況も当然想定される。

「公共」での学びを土台として、「政治・経済」や「倫理」でより深い学びを実現することは、新学習指導要領が求めているだけでなく、そもそも公民科教員としての本意のほうである。様々な制約があることは承知の上だが、2単位で内容を指導し切り、目標を達成できる指導計画と授業モデルを検討・開発することは、私たちの指導の在り方を見直す契機にもなる。現場教員が抱える課題意識を整理し共有しつつ、実用的な指導モデルを構築することで、公民科教育の発展に寄与したいと思い、この研究主題を決定した。

研究の方法と流れは、図1に示したとおりである。

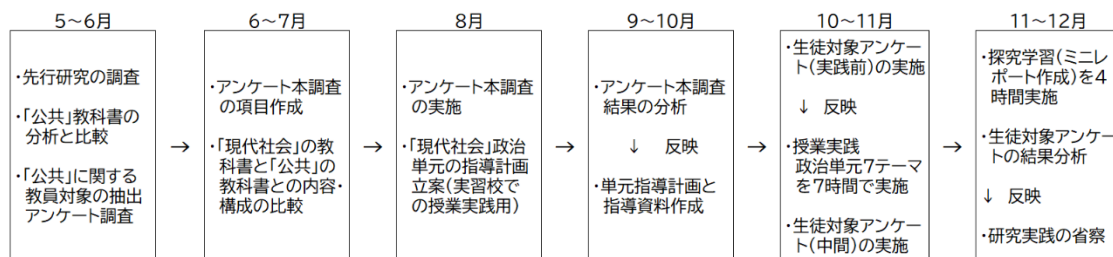


図1 本研究の概要

2 公民科担当教員は「公共」をどう捉えているか（アンケート調査）

(1) 調査の方法

当該調査は、2021年8月から9月にかけてGoogleフォームによるWEB調査により実施した。事前に(6月)に抽出調査を実施し、回答内容を踏まえて、より詳細な調査結果を得るため、調査項目と人数を拡大して実施した。本調査の対象は、愛媛県内の県立高等学校(特別支援学校は除く)及び県立中等教育学校で主に公民科を担当している教員とし、原則として地理歴史科・公民科主任に58通依頼し、うち46名から回答を得た。

(2) 調査の結果

新科目「公共」の実施に向けた現場の意識に関する調査の結果は、以下のようであった。

1 貴校における「公共」の実施時期と履修単位数を教えてください。

※複数の先生に回答いただいた学校もあり、単位は名としています。

※全日と定通を兼任の先生が1名

※()は、その内の定通制の先生の回答

	R4~実施(1年生で履修)		R5~実施(2年生で履修)	
	2単位	3単位	2単位	3単位
普通科等	11名	0名	20名	1名(1)
実業学科	7名	0名	5名	0名
総合学科	0名	0名	3名	0名

2 貴校における「公共」以外の公民科目の履修について教えてください。

※()は定通制の先生の回答

	普通科等	実業学科	総合学科	計
「公共」のみ履修させる	5(1)名	5名	3(1)名	13名
「倫理」または「政経」のどちらかを履修させる(公民2科目)	21名	7名	0名	28名
「倫理」または「政経」を両科目履修させる(公民3科目)	5名	0名	0名	5名

3 貴校における「公共」の履修単位数について、担当される予定の先生のお気持ちを聞かせてください。

※()は定通制の先生の回答

	他科目履修の有無	普通科等	実業学科	総合学科	計
実際に指導していくうえでは必要十分である	「公共」のみ実施	3(1)名	4名	1名	24名
	「公共」以外も実施	12(1)名	4名	0名	
実際に指導していくうえでは不足している	「公共」のみ実施	2名	1名	2(1)名	23名
	「公共」以外も実施	15名	3名	0名	
実際に指導していくうえでは必要以上である	「公共」のみ実施	0名	0名	0名	0名
	「公共」以外も実施	0名	0名	0名	

4 「現代社会」と「公共」の違いについてどのように受け止められていますか。(5に近いほど「現代社会」から変化が大きいとの受け止め)

5	4	3	2	1
4名	20名	13名	8名	1名
8.7%	43.5%	28.3%	17.4%	2.2%

5 「公共」新設によって、これまでと公民教育は変わると感じますか。(5に近いほど公民教育が大きく変わるとの受け止め)

5	4	3	2	1
1名	17名	16名	9名	3名
2.2%	37.0%	34.8%	19.6%	6.5%

6 「公共」の内容構成について「現代社会」と比較してどう思われますか。(5に近いほど学習の流れが良く1に近いほど流れが悪いとの受け止め)

5	4	3	2	1
2名	8名	32名	4名	0名
4.3%	17.4%	69.6%	8.7%	0.0%

7 「公共」の授業が始まることに対しての期待と不安について教えてください。(5に近いほど期待が強く、1に近いほど不安が強い)

5	4	3	2	1
0名	6名	19名	18名	3名
0.0%	13.0%	41.3%	39.1%	6.5%

8 想定される「公共」の学習の進め方について、最も近いものを選んでください。

必要に応じて指導内容の精選を図りながら網羅的に学習することを目指し、その目標を達成することは十分可能である。	5名	10.9%
必要に応じて指導内容の精選を図りながら網羅的に学習することを目指す、その目標の達成に向けては現実的に課題も多い。	31名	67.4%
重点的に指導する分野を設定しながらすべての単元の学習を進めることを目指し、その目標を達成することは十分可能である。	3名	6.5%
重点的に指導する分野を設定しながらすべての単元の学習を進めることを目指すが、その目標の達成に向けては現実的に課題も多い。	7名	15.2%

新科目「公共」を2単位でどう教え、どう学ばせるか

9 (1) 「公共」を担当されることになった場合、どの単元に力を入れたいですか。

項目	人数(割合)	この単元に力を入れたいと思う理由 (※類似の回答は集約した)
大項目A 公共への扉(導入、倫理的分野)	7名 (15.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・大項目B・Cの前提となるから。 ・公共性や公共空間など、概念や理念への問いが前提として重要と考えるため。 ・倫理を選択して履修する生徒が減っているし、現社よりも倫理の学習を深くできる内容となっているから。
大項目B 自立した主体として…(政治的・経済的分野)	25名 (54.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒にとって身近なものであるはずの教科・科目としての楽しさを実感させたい。 ・今起きていることに無関心で、自分たちで何とかしようという意欲が低いから。 ・社会人として最低限必要な素養であり社会において生きる力を養うことに直接つながる。 ・ある程度は基礎的な知識を付けたいと、広い視野に立って探究活動を進めて行くことが難しいと考えるため。 ・主権者教育が含まれているから。 ・公共を学ぶ上で基礎に当たり、知識の核となる部分であると考えから。 ・他教科や政治・経済との教科間連携が図りやすく、これまでの現代社会や政治・経済の授業でのノウハウを活用できるところから。今年度の現代社会でも注力していた分野であるから。 ・スキルがない(から力を付けたい?)
大項目C 持続可能な社会づくり(探究学習)	14名 (30.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成がしやすい分野であるため。 ・探究学習に大きな期待をしている。(生徒の主体的で活発な言論や表現を期待) ・公共における「まとめ」としての位置付けにあり、公共という科目の最重要な単元であると同時に、将来の社会を担う人材を育成する上でも重要な内容であると認識しているから。 ・答えのない課題に協働して解決しようとする力が今後求められているから。 ・生徒に、社会に対する関心を持ってもらう機会にしたいから。 ・生徒の生活に還元することで、生徒の主体的な学びを喚起し、より有意義な学習になる。 ・自分で課題を設定し、主体的・対話的な学習を通して、課題解決する力を養うことで、将来を担う若者の育成につながると思うから。 ・倫理的分野、政経的分野以上に、生徒にとってはリアリティのある内容だと思うから。 ・SDGsを知らない生徒もいるので、力を入れたいから。

(2) 「公共」を担当されることになった場合、どの単元の指導に不安がありますか。

項目	人数(割合)	この単元の指導に不安に思う理由 (※類似の回答は集約した)
大項目A 公共への扉(導入、倫理的分野)	8名 (17.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・高校1年生を対象とするので、概念を理解させるのが難しくなると思われるから。 ・多様性を尊重する姿勢を身に付けさせる中で、情報が日々更新されて、教材研究を十分に深めることが難しいと思うから。 ・正解のない課題を取り扱うことが多くなるので、授業プランを練るのにかなり労力を使うことが予想されるから。見方・考え方の解釈に自信が持てないから。 ・指導したことがないため(倫理を教えたことがないから、教員の専門分野の関係から。)
大項目B 自立した主体として…(政治的・経済的分野)	8名 (17.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・中心的部分であるがどの程度時間を取れるか。 ・どこまで踏み込んでよいか不安。
大項目C 持続可能な社会づくり(探究学習)	30名 (65.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な活動時間を確保すればするほど内容の深まりや活動への充実感は得られるが、他の項目への指導時間の確保が難しくなる。授業展開にも工夫が求められるため。 ・教材、資料の準備、教材研究に時間がかかるため。考査に向けての進捗、準備時間を含め時間数確保に課題を感じている。 ・どのように課題を設定させ、どのように授業を進めていけばよいかまだ明確な流れが見えてないため。評価の問題を考える必要があるから。 ・単なるグループ活動だけに頼らない、新たな形の効果的な探究学習を模索したいが、まだまだ未知数である。未だに授業イメージが十分に描けていないから。 ・現状ではあまりやっておらず、これまでの指導実績がないため手探りとなる。 ・生徒が興味を持って探求したり、学び合いをするか不安に思うから。 ・生徒の主体的思考が求められている中で指導に対する不安がある。 ・アクティブラーニングの実践について不安がある。 ・答えがはっきりせず、オープンエディションが多くなりそうで、また、入試にどうつながるかなど、不明で不安な点があるから。

10 「公共」を担当することになった場合、どのような点に力を入れたいと考えられていますか、当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

力を入れたい点	人数	割合
授業スタイルの改善・見直し	34名	73.9%
評価についての改善・見直し	32名	69.6%
考査に出題する問題の改善・見直し	22名	47.8%
主権者教育に関する内容を積極的に取り入れる	21名	45.7%
道徳教育に関する内容を積極的に取り入れる	13名	28.3%
時事問題を積極的に取り入れる	23名	50.0%

11 「公共」と他教科(地歴を除く)との連携についてどうお考えですか。

	大きい	どちらともいえない	小さい
連携の必要性	26名 56.5%	18名 39.1%	2名 4.4%
連携の可能性	19名 41.3%	21名 45.7%	6名 13.0%

12 来年度以降の実施に向け課題と認識されていることや「公共」がもつ新たな可能性などについて、お考えをお聞かせください。
 青文字の部分……新科目への期待や肯定的な意見 赤文字の部分……新科目への不安や否定的な意見
 緑文字の部分……今後、意見共有をしながら乗り越えていくことが求められる点

・これまでの公民科の科目でも大切にしてきた、生活の中に学習内容は生きている、ということを感じさせられる授業内容や問いかけ、資料提供を多くの先生方と共有できればいいと思っています。
 ・環境、資源・エネルギー問題など現代世界の諸課題や持続可能な世界の構築について、しっかりと考えることができる科目だと思います。そのためどのような授業手法で展開していくのかを研究し情報交換し、共有することが大切だと考えます。
 ・現代社会という科目も科目としての意義や可能性を感じているものであった。これを廃止して新設される公共はこれを上回る可能性を有するものであるかもしれないという期待を抱いている。
 ・現社の時のように、倫理と政治・経済を別項目として学ばせるのではなく、公共の扉で社会の中で生きるための枠組み(価値観や思考力など)を身に付けさせて、社会の問題を総合的に探究できる可能性があると考えています。そのような学習をすることによって、社会に貢献する人材を育成できる可能性があると考えています。
 ・現代社会における様々な問題点を自分事として捉え、改善に向けての方策を考えることができるなど、未来志向型の科目として学習に取り組みさせることが可能なのではないかと考える。
 ・どのテーマも重要であるが、授業時間の不安は大きい。また軌道に乗るまでの教材研究にも不安はある。現代社会とは違う切り口で学習を進める期待感も大きい。

- ・主権者教育の要素なども加えたことにより、社会に生じている課題を解決する力の育成など、今後の社会を作っていく生徒を育成することができる点で期待する面も多い。しかし、学習をどのようにさせていけばよいかという不安もある。
- ・不安を抱えている点は、多くの教員が大項目Bに特化し、現在の「現代社会」と同様の授業になってしまう危険性があることです。研修等を充実させて、すべての教員が指導要領に沿った授業展開ができるようにすることが大切。それと、公共が新設されたことで、より現実的な学習が展開されるはずである。
- ・指導と評価の一体化が課題だと感じる。大きな柱の三つのうちどれかを毎時間どれか評価するのは難しいと感じている。いろいろと求められることが多いにもかかわらず、時間数が足りない。2単位で指導できるのかが課題と考えている。
- ・内容が多く、単位数を確保できないのが歯痒い。入試制度としても、公民科はもっと重要視されるべきでは、と感じる。公民科目は内容が多岐に渡るのもっと単位数があれば、やりやすいのでは、と感じる。
- ・社会科の様々な内容にわたる網羅的な内容となっていることを感じるが、教科書を見ていても、まとまりがないように感じる。教員の手腕が問われるところなのだろうが、まとまりとストーリーのある授業ができるか、その点が不安。
- ・探究関係の教材作成とテーマ選定、またそういった授業の進め方に課題を感じている。
- ・現時点では何とも言えません。総合も始まるので両方考えるのは大変としか思っていません。
- ・科目のねらいと、受験科目としての在り方に差があるのではと感じる。進路多様校や実業高校において、生徒に議論をさせることに難しさを感じている。
- ・実際、今までの公民とどのように変わったのか、試験や、いわゆるセンター試験対策とかはどうなるのか、見通しがなくやってみてダメだった上手くいったのと不安材料が多くて心配である。
- ・イメージでは「現代社会」プラスαと捉えているが、以前と同様に2単位でどこまでできるか不安に感じている部分はあります。
- ・正解の無い課題や探究的課題に取り組むことの必要性は分かるが、同時に受験にも対応しなければならない現実に懸念がある。
- ・自分の主観を入れずに、客観的な議論を授業で展開できるか、不安。
- ・公共は、従前の現代社会の焼き直しではない、という認識が必要。知識注入型から、高校生が主体的に社会に関わるためには、新学習指導要領の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」をいかに育むかが課題となる。現在や未来の様々な諸課題について思考し、議論することの重要性を改めて教員が認識し、それらを実現するための教材開発や授業スタイルに真摯に取り組んでいかねばならない。
- ・可能性はあるが、大学入試の動向による。
- ・道徳的要素が含まれていく中で指導に関してどのように配慮しながら評価を行うか考えていきたいと思う。
- ・教科を通して現実社会における課題について主体的に考察させたり道徳性を養うことができるよう授業の組立てを考えたい。
- ・進学の受験科目としての「公共」がどうなるのか気になる(受験指導としての「公共」)。
- ・まずは実施してみて課題を見つけて対応していきたい。
- ・理念的な導入をしっかりとすべきと思います
- ・指導方法よりも、やはり内容が最も大切であり、研究すべきものだと思います。今までの科目での学習で培ってきた財産を、どこでうまく利用、活用できるかをまず研究してみたいと考えます。

(3) 調査結果の分析

ア 履修条件に関する分析

普通科等では、令和5年度から実施する(2年生で履修させる)学校の割合が多く、実施単位数は2単位が圧倒的であることなどから、「歴史総合」及び「地理総合」の履修に配慮した教育課程上の位置付けになっていることが見て取れる。(「公共」は)2単位の指導時間で必要十分との回答も半数程度占めているが、普通科等に限定してみた場合には、指導時間が不足しているとの割合が高くなっている。また、自由記述からは時数不足を心配する意見が多く見られることから、2単位で必要十分であるとの回答の中には、他科目で内容を補うことを前提として回答しているケースが多いことも推察できる。

イ 科目内容に関する分析

「公共」への期待はそれなりに高く、従前の公民科目からの変革を意識している教員が多い。導入部分に倫理的内容を中心とした大項目「公共への扉」が設定され、内容の指導順序が定められていることについても、おおむね肯定的に捉えられていることが分かった。一方で、時間的な制約への懸念や学習の進め方について未知の部分が多いことなどから、期待と不安が入り混じった結果となった。特に科目内容の最終部に設定されている探究する活動を通じた学習については、これまでの指導の蓄積が比較的少ないこともあり、テーマ設定や評価の在り方に関する不安が強く見て取れた。

ウ 指導方法に関する分析

新科目ということ意識してか、授業スタイルの改善・見直しの必要性を感じている教員は多く、指導と評価との一体化についても課題意識がうかがえる。また主権者教育については、プログラム化されてから一定程度時間が経過したことで、取組の定着がうかがえる。また、指導内容の多さと単位数等の外的な要因を考慮すれば、道徳教育に関わる内容までを意識的に盛り込むことは容易ではなく、それ程の余裕は見られない。その他では、令和7年度大学入学共通テストから「公共」も出題されることを受けて、今後「公共」の指導実態が、科目の理念に沿ったものになるかを心配する声も上がっていた。

3 「公共」への移行を見据えた「現代社会」の授業実践

(1) 授業実践の概要

教員対象アンケートの調査結果を踏まえて、松山市内のA高校1年生の1クラス40名を対象に、「現代社会」の政治単元7テーマの通常授業と探究的学習4時間分の実践を行った。また、実践効果を検証するためのアンケート調査を、以下の図2のように実施した。

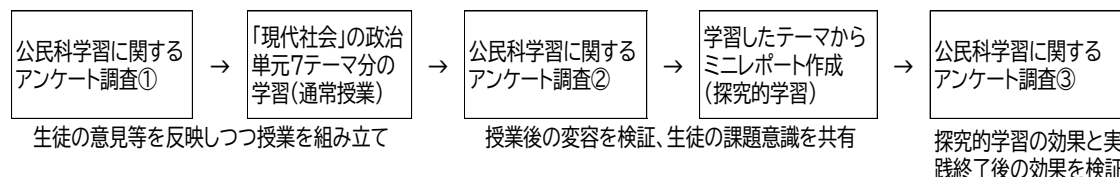


図2 実習校における研究の流れ

(2) 指導計画と指導案

「現代社会」では、まず国会・内閣・裁判所の内容を押さえてから地方自治を学習させ、その後に選挙制度や政治参加に関する内容を学習することが多い。一方「公共」では、まず政治に参加することの重要性について考えさせた後、政治参加の可能性としてより身近な地方自治を押さえてから、国家レベルの政治へと広げていく手法を採用している。今回は、「公共」への移行を見据えて「2 東書 公共 701」の単元構成を取り入れつつ、1テーマ1時間の枠にとらわれない授業展開の在り方も開発する。今回は衆議院総選挙の時期と重なったため、一部授業展開を入れ替えて実施し、学習テーマと現実社会とのリンクを強めた学習を実施した。多面的な見方を身に付けさせ、横断的に単元内容を理解させるため、渡部・井手口(2020)が提唱している複数のテーマを貫く本質的な問いを設定した上で、単元Ⅲでは1時間目に4テーマの相互の関連を確認し、その後3時間で個別テーマの学習で理解を深める形式をとっている。また、限られた時間数で指導することを意識し、7テーマの配当時数を7時間として計画した。探究的学習は、現実に確保できる時間数が少ないことを想定し、使用教科書や資料集に記載されている記述を多く使用することを条件とすることで、既習知識の整理に重きを置いた実用型レポートの作成を目指した。

なお学習評価については、国立教育政策研究所(2021)を参考にして、各テーマで「評定に用いる評価」をおおむね一つずつ設定した。すべてを毎時間評価することは実際には難しいが、形成的評価に組み込むことも想定に参考にしていただきたい。

表1 授業全体の指導計画と指導案

	現社 313 『現代社会』(東京書籍)	公共 701 『公共』(東京書籍)
「現代社会」と「公共」の教科書の単元構成比較(同じ教科書会社の場合)	第2部 現代の社会と人間 第2章 日本国憲法と民主政治 第3節 日本の政治機構 ① 国会と立法 ② 内閣と行政 ③ 裁判所と司法 ④ 地方自治 第4節 現代政治の特質と課題 ① 選挙のしくみと課題 [3時間目] ② 政党と利益集団 [2時間目] ③ 世論と政治参加 [1時間目]	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち テーマ1 民主政治と政治参加 ① 私たちの民主政治 ② 地方自治のしくみと役割 ③ 国会のしくみと役割 ④ 内閣のしくみと役割 ⑤ 政治参加と選挙 ⑥ 政党と利益集団 ⑦ メディアと世論 ※第2章にて①司法のしくみと役割
	単元を貫く本質的問い	「よい政治」とは、どのような政治でしょうか。そうした「よい政治」を実現するために私たちがすべきことやできることは何でしょうか。

単元構成	生徒の主な活動	教師の発問と留意事項 MQ：主発問 Q：発問 ◆：留意事項	○評定に用いる評価 ●学習改善につなげる評価 ・使用資料等
<p>I 主権者としての私たちの在り方(主として第4節③に対応) [1時間]</p>	<p>◇第1回アンケートに回答し政治参加についての自らの意識を確認する。 ◇若者の意識や政治参加に関する現状から主権者としての在り方を考える。 ◇メディア報道の仕方やインターネット上の情報から考えたことを意見交換し、コメントを提出する。 ◇教科書を読み直し、世論調査が示す実態と合致していると思う語句や記述にアンダーラインを引く。 ◇印刷しているスライドの周辺に、教科書の関連語句を書き込んでいく。</p>	<p>◆公民学習に対する姿勢及び主権者としての意識を確認する。 MQ：投票率さえ高ければ「よい政治参加」と言えるのか？ Q：判断材料となる情報に接する上で、気を付けるべきことは何だろうか？ Q：2紙の世論調査の結果から教科書の記述と合致している部分はどこだろうか？ ◆教科書の記述と一致させることを通じて、理解の強化を図る。</p>	<p>・パワーポイント資料 ・ウェブ上での回答 ●政治に対する意識の現状から考えようとしている。 【主体的…態度】 ○読み取ったことを基に自分の意見が述べられている。 【思考・判断・表現】 ●本時の学習内容を教科書を用いて自分の理解にそってまとめようとしている。【知識・技能】</p>
<p>II 私たち国民の声を届けるしくみについて考えよう(主として第4節②と③に対応) [1時間目]</p>	<p>◇全単元を貫く問いと本単元での問いを確認する。 ◇衆議院議員選挙の制度概要について諸資料を基に確認する。 ◇前回(2017年)の衆議院議員選挙の結果に関する諸資料から当選者決定の仕組みを読み解くとともに、小選挙区制と比例代表制のそれぞれの特徴及び課題を見いだして考える。 →ブレインストーミング →情報交換 →QRコードを読み取ってコメントをウェブ提出</p>	<p>MQ：私たち国民の声を政治に届けるために、現状の政治制度をみつめ、守っていくべきだと思う点と変えていくべきだと思う点を考えよう。 ◆公職選挙法違反の行為や事例を確認させる。 Q：愛媛県の4選挙区の結果から分かったことと考えたことを書き出してみよう。 Q 教科書等に書かれてあることを基にして当選者を割り出し、比例代表の名簿との整合性を確認しよう。 Q：衆議院と参議院の選挙ではどちらがより民意を反映する選挙制度と言えるか。</p>	<p>・パワーポイント資料 ●資料から小選挙区制と比例代表制の複数の制度及び国民審査があることを読み取れている。 【知識・技能】 ●比例代表制(拘束名簿式)の当選者がどのようなプロセスで決定するか、資料をもとに読み解けている。 ○現在の国政選挙制度の課題について、データを根拠にしてコメントできている。(ウェブ回答) 【思考・判断・表現】</p>
<p>[2時間目]</p>	<p>◇スライド資料を通じて教科書記載事項の要点を先に確認する。また、広義の「政治」の目的を踏まえて、公平・公正な政治を実現するためのルールや在り方について考える。 ◇各自で各政党の公式サイトやmanifestoを検索して内容を調べる。manifesto比較表を用いて、政策の優先事項を調べるなど政党の特色を確認する。 ◇日本の政党別議席数の推移と海外(アメリカ、イギ</p>	<p>Q：(利益集団等を通じた組織的働き掛けを行うこと自体には問題がないことを踏まえ)政治家と利害関係者との関係では、どのような点に気を付けなければならないだろうか？ ◆調べる政党は指定せず、manifesto比較表等を基にして生徒自身の興味関心に応じて調べさせる。 Q：アメリカやイギリスの議席状況とドイツの議席状況</p>	<p>・政治家と利害関係者との癒着が政治腐敗の温床となり得ることを、意見交換を通じて気付いている。 【主体的…態度】 ●自分が興味を持っている項目を書き出し、自らの生活と政治との接点を見いだそうとしている。【主体的…態度】 ○二大政党制と多党制がもつメリット</p>

	<p>リス、ドイツ)の議会勢力図を比較し、二大政党制と多党制のそれぞれが持つメリットとデメリットを考える。</p> <p>◇印刷しているスライドの周辺に、教科書の関連語句を書き込んでいく。</p>	<p>を比較して、どのような違いがありますか？また、どちらのような議席状況が望ましいと考えますか？</p> <p>◆教科書の記述と一致させることを通じて、理解の強化を図る。</p>	<p>とデメリットを、日本の政治の現状も踏まえてコメントできている。</p> <p>(ウェブ回答)</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
<p>Ⅲ 私たちの生活をかたちづくる政治のしくみ(第3節に総合的に対応)</p> <p>[1時間目]</p>	<p>◇単元全体で活用する資料とプリントの使用方法及び学習の流れを確認する。</p> <p>◇衆院選の結果をインターネットで調べ記入する。</p> <p>◇「選択的夫婦別姓訴訟(R3年判決)」を取り上げ、関連する法令と私たちの生活との関わりを理解する。</p> <p>◇最高裁判所の判決内容から司法権・裁判官の独立性について理解する。</p> <p>◇同性カップルのパートナーシップ証明の取組や新型コロナウイルス対策として県内に発令された行政命令等から、国政と地方政治との関連を理解する。</p>	<p>MQ:「政治のしくみと政治の決定は、私たちの生活にどのように関わっているのだろうか。」</p> <p>◆最新の政治情勢と学習内容との関わりを意識させる。</p> <p>◆婚姻届の法的根拠を理解させ、「訴訟は、どの法のどの規定の合憲性を問うているのだろうか?」と問う。</p> <p>◆反対意見を持つ裁判官がいることを確認させる。</p> <p>Q:「『まん延防止等重点措置』による要請が私たちの住民生活に届くまでには、どのような過程を踏んでいるのでしょうか。」</p>	<p>●国会(立法),内閣(行政),裁判所(司法),地方自治の関係をまとめた図(以下、「まとめの図」)</p> <p>●司法に関する基礎的語句をプリントに記入できている。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>●社会事象から立法,行政,司法,地方自治の学習内容を捉えようとしている。</p> <p>【主体的…態度】</p>
<p>(主として第3節の①②に対応)</p> <p>[2時間目]</p>	<p>◇前時までの課題に対する回答を全体で確認し、優れた回答等を紹介する。</p> <p>◇資料の活用方法とまとめプリントの記入の仕方について確認する。</p> <p>◇「国会と立法」「内閣と行政」についての内容を、調べながらまとめていく。</p> <p>◇途中で課題に回答する。(衆議院選挙後の国会の議席状況から考える問題,ウェブ上での回答)</p>	<p>◆課題を再確認し、問いに正対した回答をすることの重要性を理解させる。</p> <p>◆4テーマ分の内容を横断している「まとめの図」と資料集を活用しながらプリントを仕上げさせる。</p> <p>◆選挙後の実際の政治日程を記入しながら政治機構のしくみを確認させる。</p> <p>Q:「(各党の議席状況を記入させた後に)次の国会では、第一党が提出する法案や予算案は成立するだろうか。」</p>	<p>●スライド資料とまとめの図</p> <p>●まとめプリント</p> <p>●実際の政治日程を押さえながら国会と内閣の関係について調べてまとめられている。</p> <p>【知識・技能】</p> <p>○実際の議席状況から法案等の成立の可能性について説明できている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
<p>(主として第3節④に対応)</p> <p>[3時間目]</p>	<p>◇まとめの図やスライド資料を用いて地方政治と国政との共通点及び相違点を整理する。</p> <p>◇愛媛県議会と愛媛県知事室のホームページにアクセスして、地元選出の議員や知事の活動を調べる。</p> <p>◇有権者人口のデータを用いて、自分が住民として直接請求権を行使する場合の手続きについて、事例ごとにまとめる。</p>	<p>◆県内の地方議会選挙や首長選挙の日程表を見て、自分が初めて投票する選挙を確認する。</p> <p>◆パブリックコメントでは、高校生など若者からの意見も寄せられていることに着目させる。</p> <p>Q:「あなたの住んでいる市町で、高校生が発案した条例案を提案したいと思います。どのような手続きをとれば制定できますか。」</p>	<p>●積極的に左記の情報を調べ、地元の政治的課題への関心を高めている。</p> <p>【主体的…態度】</p> <p>○有権者人口のデータから、直接請求に必要な署名数を計っている。【知</p>

	<p>◇令和2年度の愛媛県の決算(歳入)状況から、愛媛県の財政状況を理解する。</p> <p>◇地方創生が政治課題の一つになっていることを確認させ、地方活性化に向けて自分の考えをまとめる。</p>	<p>◆自主財源の乏しさは、地方自治にどのように影響していくか考えさせる。</p> <p>◆衆議院議員選挙における各政党マニフェストや資料集に書かれていることを参考に記述させる。</p>	<p>識・技能</p> <p>○地方交付税や国庫支出金、一般財源などの語句の意味を押さえて説明できている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p>
<p>(主として第3節③に対応) [4時間目]</p>	<p>◇憲法における司法の規定を確認する。(憲法第6章各条文と第32条)</p> <p>◇スライド資料を通じて、裁判の種類や三審制の概要を理解する。</p> <p>◇架空の交通事故案件から、裁判の仕組みについて考える。(道路交通法違反、損害賠償責任、処分内容に対する不服)</p> <p>◇少年法の改正などの事例から、司法制度改革の背景や課題について考える。 裁判員制度の課題 犯罪被害者参加制度 等</p>	<p>◆裁判は「受ける権利」であり、司法が持つ人権保障の意味を理解させる。</p> <p>◆単元の初めに配布したまとめの図を用いてプリントに記入させる。</p> <p>Q:「(国家公務員による交通事故死亡事故案件から)この裁判には三つの裁判の要素がありますが、それぞれどの内容に関わりますか?」</p> <p>◆民法の改正により、再来年度以降は、生徒自身も裁判員の候補者となることを意識させる。</p>	<p>・スライド資料 ・まとめの図 ・まとめプリント</p> <p>○一つの文章から、刑事、民事、行政のそれぞれの訴訟要素を読み取れている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>●司法制度改革は、社会の変化や私たちの生活に密接に関わっていることを理解できている。</p> <p>【主体的…態度】</p>
<p>【探究的学習】 レポート作成 [4時間]</p>	<p>◇レポートの作成要領について確認する。</p> <p>◇選択テーマ</p> <p>①民意を反映した公正な政治を実現するためには?</p> <p>②法は私たちの生活にどのように関わるのか?</p> <p>③これからの司法の在り方と私たちの関わり方</p> <p>④私の地方創生プラン</p> <p>⑤その他(オリジナル)</p>	<p>◆レポートのテーマは、今回の学習単元の内容から設定したものを選択するか各自が設定する。</p> <p>◆テーマは持続可能な社会づくりに関するものとする。</p> <p>◆記述の中に、資料集又は教科書(学習単元内)に記載の重要語句を30以上使用して仕上げる。</p>	<p>・レポートはA3用紙1枚とし、各自のパソコンで作成する。</p> <p>・現状の政治や制度の批判だけでなく、生徒自身が現在から将来にわたってどのように関わっていくかが述べられている。</p> <p>○【主体的…態度】</p>

(3) 授業実践に対する生徒アンケートの結果(表2-1, 2, 3, 4, 5)

表2-1

質問	現在、「現代社会」の学習には、主体的・前向きな姿勢で臨んでいますか。						回答	各回で授業改善を図るために聞いた項目と生徒の反応
	5	4	3	2	1	回答		
第1回調査(10月)	6人 20.0%	12人 40.0%	11人 36.7%	1人 3.3%	0人 0%	30人 100%	<p>より主体的・前向きな姿勢で学習に臨んでいくために、どのようなことを授業で求めたいか。</p> <p>○板書を写すだけの授業をなくしてほしい。</p> <p>○教科書に合わせて現在の社会の状況や時事問題を取り扱ってほしい。</p> <p>○話し合いを増やしてほしい。</p> <p>○今日本や世界で起こっていることと絡めて教えてほしい(事柄の名称だけでなく歴史背景など)。</p> <p>○簡潔で分かりやすく面白い授業、教科書の太字をおさえながらしてほしい。</p>	
第2回調査(11月)	2人 5.7%	9人 25.7%	17人 48.6%	5人 14.3%	2人 5.7%	35人 100%	<p>○前半授業で良かった点(学習効果が大きかった点)、▲悪かった点(学習効果が小さかった点)</p> <p>○最新の出来事やグラフから学べて身近な政治として考えることができた。○国会のことなど、実際の出来事と関連した授業で理解は深められたと思う。</p> <p>○主体的に学習するために授業中に調べ学習があった点。○まとめプリントが分かりやすかった。</p> <p>▲プリントが多すぎてどれをやっているのかが分からない時がある。▲宿題が教科書と載っていないのでやる気が出ない、教科書に沿ってない。▲もう少し教科書の重要語句などの解説をしてほしい。テストが心配な部分もある。</p>	
第3回調査(12月)	8人 21.6%	20人 54.1%	7人 18.9%	2人 5.4%	0人 0%	37人 100%	<p>○後半授業(探究的学習)で良かった点(学習効果が大きかった点)、▲悪かった点(学習効果が小さかった点)</p> <p>○レポートにまとめることで、普通に学習するよりも理解が早まった点。○自分で分からない箇所や知りたいところを詳しく調べることができたので確かな理解につながった。○自分で考える機会が多かったので、教科書や図説を進んで見ることが増えた。</p> <p>▲どうやるのが正解か分かりにくかった点。▲他の分野をあまり勉強できなかったこと(一つの範囲に絞った学習になってしまう点)▲テストの直前にレポートを書かなければいけないのは少しテスト勉強がおろそかになってしまうかなと思った。</p>	

新科目「公共」を2単位でどう教え、どう学ばせるか

表 2-2

質問	回答	かなり多い	どちらかといえば	適 当	どちらかといえば	かなり少ない
		(濃すぎる)	多い (濃い)		少ない (薄い)	(薄すぎる)
第1回調査(授業実践前) これまでの「現代社会」の授業に関して、1時間の授業で学習する内容(範囲、量)や密度をどう感じていますか。		3人	13人	13人	1人	0人
		10.0%	43.3%	43.3%	3.3%	0.0%
第2回調査(前半授業終了後) 前半の「現代社会」の授業に関して、1時間の授業で学習する内容(範囲、量)や密度をどう感じていますか。		2人	19人	11人	2人	1人
		5.7%	54.3%	31.4%	5.7%	2.9%

表 2-3

質問	現実の社会的課題を読み解いていくうえで重要だ。					現実の社会的課題を読み解いていくうえで役に立っている。				
	そう思う	概ねそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	そう思う	概ねそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
第1回調査(授業実践前)	16人	12人	2人	0人	0人	11人	14人	5人	0人	0人
	53.3%	40.0%	6.7%	0.0%	0.0%	36.7%	46.7%	16.7%	0.0%	0.0%
第2回調査(前半授業終了後)	13人	16人	2人	2人	2人	9人	17人	6人	2人	1人
	37.1%	45.7%	5.7%	5.7%	5.7%	25.7%	48.6%	17.1%	5.7%	2.9%
第3回調査(探究的学習終了後)	18人	16人	3人	0人	0人	16人	19人	2人	0人	0人
	48.6%	43.2%	8.1%	0.0%	0.0%	43.2%	51.4%	5.4%	0.0%	0.0%

表 2-4

質問	政治に対して関心を持っていますか。					18歳になったら選挙は必ず行こうと思えますか。					自分を含めて、若者の意識や行動によって社会をよりよく変えられると思いますか。				
	とてもそう思う	まあそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	まあそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	まあそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
第1回調査(授業実践前)	4	11	6	8	1	8	10	6	3	3	5	12	5	5	3
	13.3%	36.7%	20.0%	26.7%	3.3%	26.7%	33.3%	20.0%	10.0%	10.0%	16.7%	40.0%	16.7%	16.7%	10.0%
第2回調査(前半授業終了後)	5	17	7	3	3	16	13	4	0	2	11	18	2	3	1
	14.3%	48.6%	20.0%	8.6%	8.6%	45.7%	37.1%	11.4%	0.0%	5.7%	31.4%	51.4%	5.7%	8.6%	2.9%
第3回調査(探究的学習終了後)	9	13	6	6	3	21	8	3	3	2	16	15	2	3	1
	24.3%	35.1%	16.2%	16.2%	8.1%	56.8%	21.6%	8.1%	8.1%	5.4%	43.2%	40.5%	5.4%	8.1%	2.7%

表 2-5

質問	一連の研究授業を終えての感想を教えてください。(授業者に対して) ※今後の授業改善に関するものを一部抜粋し、誤字脱字等を訂正して筆者掲載
	<ul style="list-style-type: none"> ・現実で起きていることと並行して授業ができたので、政治に対してよく分かった。関心を持って取り組めた。 ・実際の様々なデータを使っただけの授業を受けたことで、今回の期末テストでは、思っていた以上に解けることができうれしかった。今まで平均点が取れなかったのに平均を大きく上回ってよかった。 ・初めは何となくであり身になっていと感じたり、理解ができてい、関心があるとは感じませんでした。でも、だんだん授業を重ねるたびに、分かるところも増えていき、今の政治の現状も知れて有意義でした。 ・レポートは最初は戸惑ったけど、ぼーっと授業を聞くより内容が頭に入ってよかったです。内閣の表とかまとまっていたプリントはすごく分かりやすくして理解が深まりました。 ・時事について興味わいたので良かったです。語句がないと理解できないところもあったので、授業内で出してほしかったなと思います。教科書にもっと沿って授業をしてほしかった。 ・テストが不安な部分もあったが、テスト前のまとめプリントのおかげで不安が解消されました。実際の選挙などに基づいた学習で得た知識を今後の人生に生かしていきたいです。

(4) 実践の振り返りとアンケート結果の分析

授業計画及び指導案では、教科書の政治単元7テーマを7時間で実施することを目指していたが、実際には大変難しく、生徒の反応を受け止めながら進度を調整したことで、最終的には7テーマを8時間で実施することとなった。表 2-2 から、今回の授業進度には生徒自身も余裕がないことがうかがえる。

表 2-1 及び表 2-3 からは、生徒の科目学習に対する意欲はそれなりに高いものの、これまでの学習が、生徒の政治に対する意識の向上に結び付いていないことも読み取れる(表 2-4)。今回、「公共」の教科書配列を取り入れた指導計画に基づいて、最近の判例や政治情勢などとリンクさせながら授業を行ったことにより、最終的には生徒の政治参加に対する意識の高まりが数値上はつきりと見られた(表 2-4)。しかし、中間アンケートの時点では、複数の資料を活用しながら内容を横断的に学ぶことに慣れていない生徒が多く、今回の一連の授業は教科書に沿ったものではないと不安を感じた生徒もいるなど、かえって学習に難しさを覚える生徒の割合が増えてしまう結果にもなった。生徒の希望を一定程度反映したつもりの授業であったが、時間的制約をクリアするために結果的に多くの内容を組み込

みすぎて、消化不良を招いたと考えられる。こうした点については、生徒の反応を真摯に受け止め、柔軟に授業改善し続けることが必要である。

興味深かったのは、今回 4 時間という短い時間しか探究的学習を設定できなかったが、それでもレポート作成によって、学びの主体性と科目の学習が社会課題を読み解く上で役に立っているという認識が共に大きく向上した点である(表 2-4)。授業を重ねるたびに理解度が向上したという記述(表 2-5)も複数あり、レポート作成というアウトプットを通じて、前半の授業を通じた内容の横断的なインプットがより生きてきたと推察できる。

4 研究のまとめと提言

「公共」の学習を 2 単位という限りある時間で実りあるものにするためには、指導者自身に科目内容をマクロ・ミクロの両面から丁寧に捉える力が備わっていることが必須と言える。今回の研究実践では、おおむね 1 テーマ分を 1 時間で実施することについての難しさを再認識するとともに、特に進学校においては指導者も生徒も“これで大丈夫なのか”という心理的壁をどう突破するかという課題が改めて浮き彫りになった。そうした懸念に向き合う必要もあり、今回の実践では、同時に期末考査対策用のまとめプリントも配布しておいた。このように受験対応として必要な学習の見通しを示すことで、大学受験を意識した進学校においても、生徒たちはある程度安心感を持って横断的な学習や探究的学習に取り組めるようになり、研究対象クラスの考査成績も全体的に良好な結果であった。学習内で単元の全体像の理解が進んでいけば、知識の整理は直前でも間に合うとも言える。

「公共」の大項目 C に設定されている探究する活動を通じた学習では、学年末考査を控えた年度末に多くの時間を配当することは現実的に難しく、仮に 3 学期に多くの時間を配当して探究的学習を行った場合、3 学期は探究的学習を中心にした評価となり、高校特有の細かい評点にどう結び付けるかという現実的な課題も生じる。そこで、探究的学習には短い設定時間でも一定の効果があることが示されたため、学習指導要領から逸脱しない範囲で、大項目 B の内容が半分程度終わった段階で一度ミニレポートを作成させるなど、探究的学習を分散させて実施する形式をとることも選択肢として提案したい。

令和 4 年度においても「現代社会」の履修は半数以上の学校で残るため、今後も「公共」の本格的な履修開始を見据えた授業プランの作成を、先生方と協力して行っていきたい。

引用・参考文献

- 文部科学省(2019). 高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 公民編 東京書籍.
 浜島書店編集部(2020). 最新図説 現社 浜島書店.
 谷田部玲生 他(2020). 新科目「公共」を核とした公民教育を小中高等学校で効果的に推進するための調査研究(研究成果報告書) 日本公民教育学会.
 渡部竜也・井手口泰典(2020). 社会科授業づくりの理論と方法 明治図書.
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター(2021). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 公民 東洋館出版社.
 間宮陽介 他(2021). 公共(2 東書 公共 701(令和 4 年度以降用教科書見本)) 東京書籍
 間宮陽介 他(2021). 現代社会(2 東書 現社 313(平成 28 年 3 月検定済教科書)) 東京書籍
 村井大介 他(2021). 高等学校公民科『公共』を教師はどのように捉えているか 静岡大学教育実践総合センター紀要, 31, 107-116.